



辰柳勝之さんの説明を聞く農業大学生

県立農業大学生に酪農の仕事を紹介

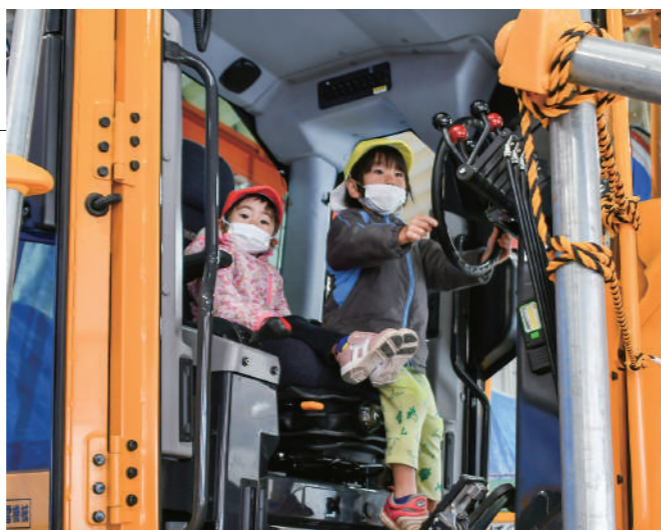
くずまき雇用サポートセンターが主催する牛とミルクのお仕事見学会が11月10日開催され、岩手県立農業大学校畜産学科酪農経営科の学生13人が町を訪れました。

学生たちは、辰柳牧場（辰鼻）を訪問し、自動搬送搾乳装置など最新の牛舎設備を見学しました。また、くずまき高原牧場や葛巻町酪農ヘルパー利用組合が仕事を紹介。就職を間近に控えた学生たちは、町への雇用就農という選択肢を新たに知った様子でした。今後、酪農の担い手の確保につながることが期待されます。

除雪機械出動式 園児が乗車体験

11月12日、町除雪機械格納庫で除雪機械出動式が行われ、関係者17人が出席しました。鈴木重男町長は「町民の生活を支えるため、春まで事故がないよう安全に作業してください」と訓示を述べました。

引き続き行われたふれあい乗車体験では、保育園児たちが次々と運転席に乗り込み、ハンドルに触れたりクラクションを鳴らすなど体験を楽しみました。加賀谷心さん（五日市保育園）は、「除雪車を見たら、近づかないで遠くから手を振って応援します」と話していました。



除雪車の運転席の乗り心地を体験する園児

町の食品加工の現場 岩大生が特徴を学ぶ

11月14日、岩手大学のアイスクリーム研究会に所属する学生14人が町を訪れ、くずまきジェラートクローバー畑など食品加工の現場を見学しました。

学生たちは、大学で鈴木重男町長や中村哲雄前町長の講話を聞き町に関心を持ち、6月にはクローバー畑の経営者の方々を大学に招くなどして研究を続けています。代表の及川凱垂さん（3年）は、「地元の企業と連携し、ワインなど地域の食材で自分たちのオリジナルのアイスクリームを商品化したい」と目標を語っていました。



ジェラートを試食しながら取り組みについての話を聞く研究会の皆さん



女性生産者（円内）の発表を聞く参加者

全国の生産者つなぐ 畜産女性の大会開催

10月28日、令和3年度全国畜産横断いきいきネットワーク大会（同ネットワーク主催）がオンラインで開催され、町内で畜産に携わる女性や関係機関の職員など7人が参加しました。

大会では、酪農、養豚、養鶏など畜産の各業種の女性生産者が自らの仕事を紹介。沖縄では牧草を年に6回収穫している事例に町の参加者は驚きながらも、興味深そうに聞き入っていました。千葉一美さん（小屋瀬）は、「酪農以外の業種の話がとても新鮮に感じた」と畜産業に関して視野を広めた様子でした。

町の暮らしの文化を 小屋瀬小児童が学ぶ

小屋瀬小学校（根反正樹校長、児童27人）の3～4年生5人が、小田民俗資料館で昔の暮らしの文化について学びました。

文化財保護委員の山崎邦廣さん（小田）が、昔の農具や生活用品などを説明すると、児童たちは、使い方や使われていた年代などについて熱心に質問していました。中村諒さん（4年）は「教科書でしか見たことがなかった昔の道具の実物を見られて良かった。今は便利な道具がたくさんあり技術が発達したのだと分かった」と、暮らしの移り変わりを実感していました。



稲作で使われていた昔の農具について学ぶ児童

手づくりおもちゃ 児童と園児が交流

11月5日、江刈小学校（小室好司校長、児童27人）の1～2年生14人が江刈保育園を訪問し、手づくりおもちゃで遊ぶ「おもちゃランド」を開催しました。

児童たちは、生活科の授業で、木の実やペットボトルなど身のまわりのものを使っておもちゃを手づくり。保育園のホールいっぱいにおもちゃを広げ、園児たちに遊び方を教えていました。澤遥斗さん（1年）は「おもちゃを作るのは大変だったけど、たくさん遊んでくれてよかった」と笑顔を見せていました。



木の実釣りのコーナーで園児に遊び方を教える児童